

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

新城市地域公共交通会議

平成19年12月26日設置

フィーダー系統 平成29年6月21日 確保維持計画策定

○**地域の特性・公共交通の現状**

愛知県東部、東三河の中央に位置する新城市は新城市、鳳来町、作手村が合併し、平成17年に誕生した。県内で2番目に大きな面積を有し、市内の84%が緑に覆われている。

公共交通の現状としては、市域や旧市町村を跨いでの移動をJR飯田線をはじめとした幹線が担い、地域内の移動は支線である新城市コミュニティバスSバスが担っている。また、平成28年7月からは新城市と名古屋市、長久手市を結ぶ高速バス「山の湊号」の運行を開始し、名古屋方面への通学、通勤の足を確保している。

○**これまでの経緯**

第1次新城市総合計画（策定：平成20年4月 計画期間：20年度～30年度）

- 公共交通に関する重点施策：公共交通網の整備と利用向上
- 主な事業：公共バスの運行、飯田線の活性化 ■目標：公共交通機関等の充実と満足度の向上



**新城市地域公共交通総合連携計画～山の湊 創造都市を支える公共交通づくりに向けて～
（策定：平成20年2月 計画期間：20年度～29年度）**

—基本方針—

民間路線バスの撤退や、合併による市域広域化への対応など、これまでの路線維持にとどまることなく、市民にとって満足度の高い新たな公共交通システムの構築を目指す。

★新公共交通システム推進の6つのポイント

運行形態・路線網の検討	バス関連施設の整備	ニーズの把握と反映
地域・利用者の参画	利用しやすい料金体系	積極的な情報提供



計画期間中に起きた変化や課題を踏まえて

新城市地域公共交通網形成計画（策定：平成29年3月 計画期間29年度～33年度）

新城市地域公共交通網形成計画 基本理念

公共交通の現状と必要性を全市で共有し、
一人ひとりが公共交通を維持・発展させていきます

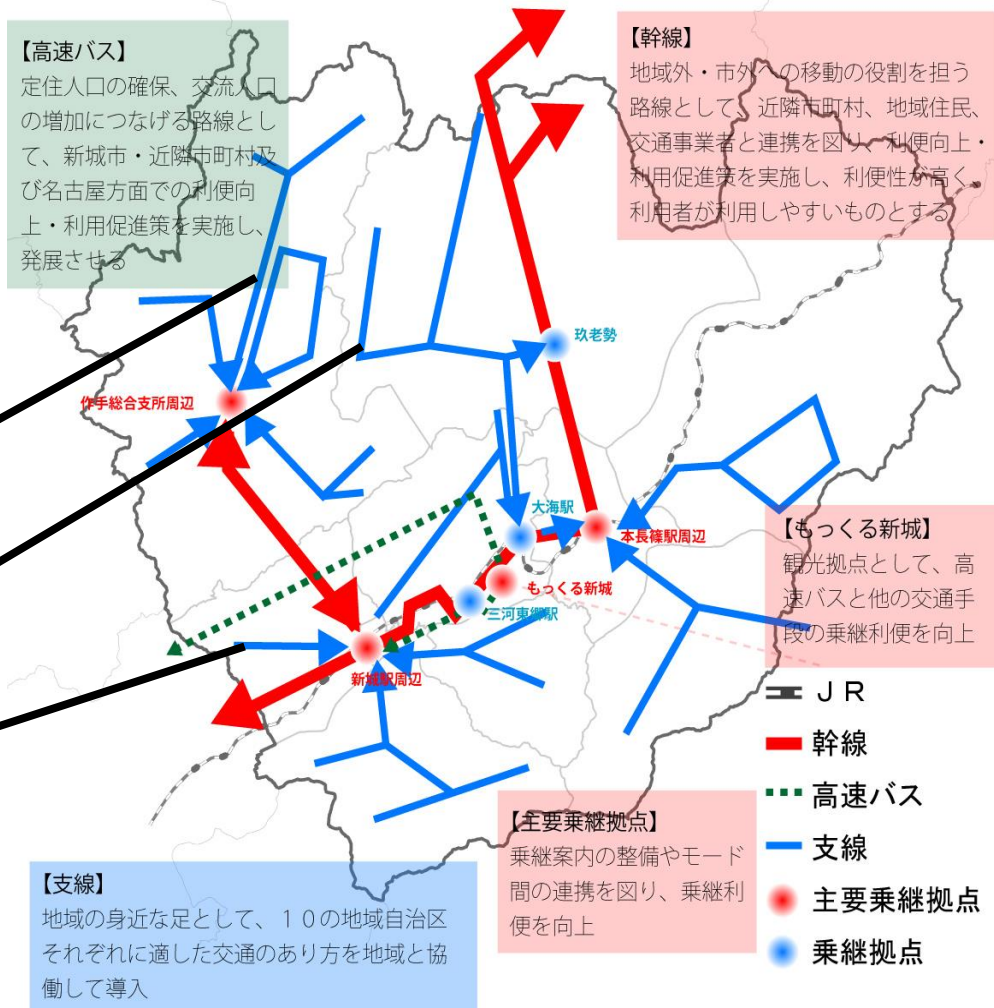
〈基本方針〉

方針 1
公共交通の現状を地域で共有し、
地域・行政・交通事業者で公共交
通網を作ります

方針 2
組織間の連携を図り、関係者と一
体となって利便を向上させます

方針 3
地域に愛され、「利用したくな
る」公共交通を作ります

将来の公共交通ネットワーク



つくであしがる線

塩瀬線

西部線

フィーダー補助路線

【目標達成に向けた取組内容】 ※フィーダー補助路線に係る取組については赤字で記述

方針1 公共交通の現状を地域で共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります

実施内容	実施時期
高速バス 市内及び北設楽郡の高校生へ通学利用者向けチラシ配布	H30.1.10
田口新城線活性化検討会開催	H30.3.22・6.1 7.25・8.6
鳳来南部地域団体との意見交換実施	H30.3.26
北部線 経路変更及びダイヤ変更実施	H30.4.1
塩瀬線・布里田峯線 経路変更・ダイヤ変更・バス停移設実施	H30.4.1
長篠山吉田線 ダイヤ変更実施	H30.4.1
秋葉七滝線 ダイヤ変更実施	H30.4.1
高速バス 藤が丘さくらまつりでの高速バスPR実施	H30.4.7・8
地域協議会会長会で地域への体制構築依頼と現況説明	H30.5.25
高速バス もっくる新城南バス停の改良工事実施	H30.6
第4回 作手地区市民公共交通ワークショップ開催	H30.7.26
秋葉七滝線を守り育てる会開催	H30.8.9・11.26
塩瀬線・布里田峯線を守り育てる会開催	H30.8.21・12.11
鳳来南部地域団体及び地域住民との意見交換実施	H30.9.14
田口新城線モニターツアー実施	H30.11.14
第5回 作手地区市民公共交通ワークショップ開催	H30.12.4
設楽町・豊鉄バスとの合同による田口新城線アンケート調査実施	H30.12.11



高速バス「山の湊号」
通学利用者向けチラシ



作手地区市民公共交通
ワークショップの様子

方針2 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便を向上させます

実施内容	実施時期
市内3高校へのヒアリング調査実施 (高校との連携)	H30.7.17・18
市内3高校及び田口高校へのアンケート調査実施 (高校との連携)	H30.11.21 ～H30.12.14
高速バス・田口新城線を活用した企画切符発売 (観光部局との連携)	H30.11.10～
若者議会と連携した施策の検討 (若者との連携)	H30.6～
新城市安全安心決起大会での公共交通PR (警察との連携)	H30.7.12



高速バス・田口新城線
企画切符チラシ

方針3 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります

実施内容	実施時期
市政番組でのバス乗り方教室放送 (Sバス紹介)	H30.3.21～
新城市バスマップ改定及び配布	H30.4
新城市「マイバス時刻表」発行開始	H30.7.2～
市政番組でのバス乗り方教室放送 (北部線)	H30.9.12～
市政番組でのバス乗り方教室放送 (作手線)	H30.11.14～
新城市バス情報の検索サイトへの情報提供開始	H30.11.21
新城地域団体とのバス勉強会開催	H30.11.21



30年度版
新城市バスマップ

【新城市地域公共交通網形成計画の目標】

指標	現状【H27】	目標【H33】
Sバス利用者数	159,839人	170,000人
Sバスへの市負担額	111,809千円	現状維持
Sバス収支率	18.3%	19.4%
民間バス利用者数	201,767人	現状維持
高速バス利用者数	4人/便程度 (H28)	20人/便程度 (H31)
バス利用者満足度	1.10	1.16
バス利用者認知度	82.1%	90.0%
地域での検討会議	0地域	全地域
高校との協議会	0校	市内全校

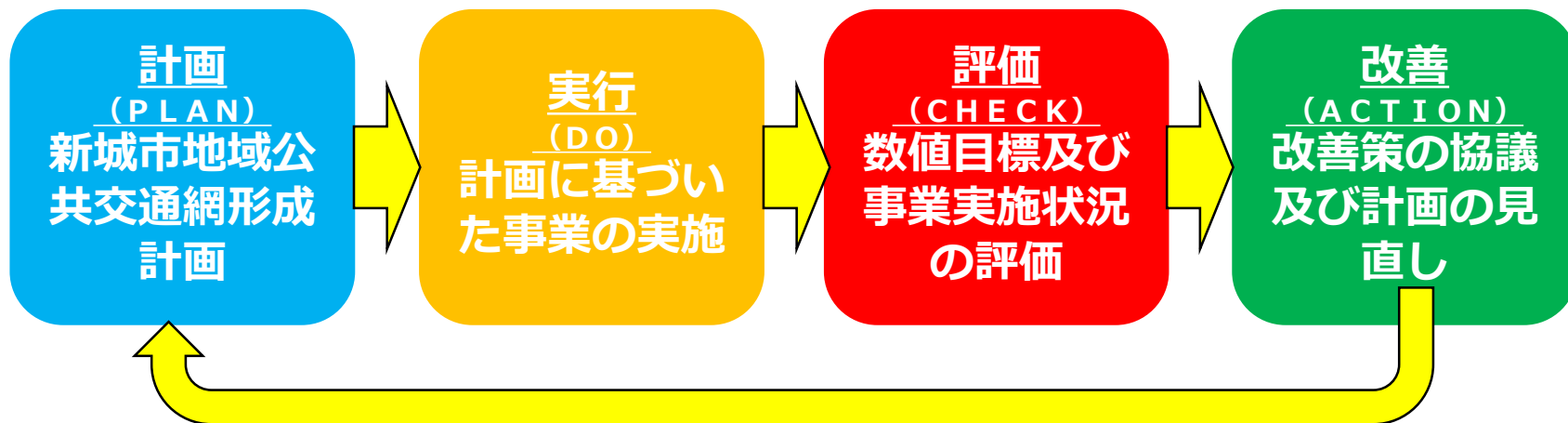
目標を達成するための
評価方法（目標値は毎年度設定）

① Sバスについては、利用者数、収支率、満足度について毎年度評価

② 民間バス、高速バスについては、利用者数、満足度について毎年度評価

③ Sバスは小中学生のスクールバス利用を除いた利用者数について評価

【PDCAサイクルの流れ】



3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

※利用者数、収支率は、**小中学生のスクールバス利用を除いた値**で算出
 ※目標値は27年度実績（H26.10.1～H27.9.30）を基に、利用者数はSバスは1.01倍、民間バスは現状維持、高速バスは28年度実績の2.5倍、収支率は1.01倍、満足度は+0.01として設定

評価基準
 A・利用者数及び収支率の達成度が100%以上で満足度が1.0以上の場合
 B・利用者数又は収支率の達成度のいずれかが100%を超えた場合
 B・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回ったが、満足度が1.0以上の場合
 C・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回り、満足度も1.0より小さい場合

路線名		利用者数（カッコ内は総数）			収支率（%）			満足度数（基準値は1.0）			自己評価
		目標値	30年度	達成度	目標値	30年度	達成度	目標値	30年度	目標との差	
S バス 新城	作手線	44,639	48,740	109%	28.87%	28.87%	100%	1.03	0.98	-0.05	B
	中宇利線	16,070 (55,942)	13,337 (44,117)	83%	10.52%	10.45%	99%	1.14	1.10	-0.04	B
	吉川市川線	3,521 (10,939)	2,552 (8,312)	72%	3.31%	3.35%	101%	1.18	1.20	+0.02	B
	北部線	4,203 (8,327)	3,247 (6,386)	77%	7.40%	5.52%	75%	1.11	1.10	-0.01	B
	西部線 (フィーダー路線)	3,585	3,022	84%	7.49%	5.90%	79%	1.07	1.11	+0.04	B
S バス 鳳来	布里田峯線	403 (3,683)	598 (4,197)	148%	1.01%	1.21%	120%	1.12	1.08	-0.04	A
	塩瀬線 (フィーダー路線)	1,656 (6,489)	1,397 (2,722)	84%	3.52%	2.18%	62%	1.17	1.07	-0.10	B
	秋葉七滝線	2,627 (8,908)	1,553 (8,032)	59%	5.69%	2.50%	44%	1.20	1.14	-0.06	B
	長篠山吉田線	2,116 (16,784)	2,644 (14,001)	125%	4.44%	3.39%	76%	1.09	1.00	-0.09	B
S バス 作手	守義線	2,304 (4,381)	2,620 (5,261)	114%	4.21%	2.96%	70%	1.15	1.14	-0.01	B
	つくであしがる線 (フィーダー路線)	1,006	1,016	101%	2.47%	2.04%	83%	1.20	1.16	-0.04	B

路線名		利用者数（カッコ内は総数）			収支率（%）			満足度数（基準値は1.0）			自己評価
		目標値	30年度	達成度	目標値	30年度	達成度	目標値	30年度	目標との差	
民間バス	田口新城線	51,051	42,211	83%	—	—	—	1.08	1.01	-0.07	B
	新豊線	145,416	138,137	95%	—	—	—	1.00	1.05	+0.05	B
	四谷千枚田新城線	6,319	11,101	176%	—	—	—	1.06	1.03	-0.03	A
高速バス	高速バス「山の湊号」	10人/便	7.0人/便 (H30.9)	70%	—	—	—	1.00	1.13	+0.13	B

全体の評価							
	H33目標	30年度	達成度		H33目標	30年度	達成度
Sバス利用者数	170,000	149,354	88%	Sバス収支率	19.4%	15.8%	81%
	H33目標	30年度	達成度		H33目標	29年度	目標との差
民間バス利用者数	201,767	189,898	94%	バス利用者満足度	1.16	1.09	-0.07

目標達成状況についての考察

- ・自己評価がAとなった布里田峯線については、27年度の路線延長により、本長篠駅前まで直通で行けるようになり、その付近への用事がある人の利用が増加したことが要因である（←満足度調査より）
- ・四谷千枚田新城線については27年度の路線延長により、沿線住民が新城市市民病院まで行けるようになったことで、高校生や一般の利用が増加したことが要因である（←満足度調査より）
- ・自己評価がBになった路線についてはほとんどの路線で利用者数、収支率が目標値を達成できていない。全ての路線に共通して、それまで定期的に利用していた高齢者が施設に入所したり亡くなってしまったことが要因として挙げられる（←満足度調査及び運転手の方へのヒアリング調査より）

今後の方針

- ・引き続き、自己評価結果を地域へフィードバックし、この結果を基に地域と協議を行い、連携して路線の見直し、利便向上策、利用促進策を実施する。

※上記自己評価については平成30年1月9日の新城市地域公共交通会議で協議した。

方針1 公共交通の現状を地域で共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります

課題 Sバスの利用者減少



対応 地域と一体となった施策の実施

30年度のSバス利用者数は、多くの路線で目標値を下回った。30年度は地域協議会会長会でSバスの現状についての説明を行い、モデル地区である作手地区でのワークショップや各地域との意見交換を実施してきた。こうした取り組みは利用者増にもつながっており、昨年度よりモデル地区として協議を進めている作手地区の路線は利用者数の目標値を達成している。今後はこうした取り組みを全地域へ広げ、また、すでに体制が構築されている地域では路線再編や利用促進策を実施することで利用者増につなげる。

課題 地域間幹線の利用者減少



対応 関係者と一体となった施策の実施

30年度地域間幹線（作手線・田口新城線・新豊線）の利用者数は、作手線では目標値を上回ったものの、田口新城線、新豊線では目標値を大きく下回った。田口新城線については、今年度より関係者で組織した田口新城線活性化検討会で協議を行い、モニターツアーの実施や企画切符の販売を行った。引き続き、利用促進策を実施していくとともに、沿線にある高校の統廃合により、高校生の利用形態が大きく変わることから経路及びダイヤの変更を進めていく。新豊線についても、沿線市町村、交通事業者と協議を行い、利便向上策、利用促進策を実施する。

方針2 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便を向上させます

課題 連携施策の周知が不十分



対応 イベントと連携したPRの実施

30年度、関係者と一体となった利用促進策として、「高速バス・田口新城線を活用した企画切符発売」と「新城市安全安心決起大会での公共交通PR」を実施した。しかし、名古屋市、長久手市の住民や地域住民等への周知がまだ不十分である。こうした施策の周知を拡大し、利用者増につなげていくため、ホームページや広報等でのPRだけでなく、新城市及び名古屋で開催されるイベントでのPRを行う。

方針3 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります

課題 公共交通利用案内のPR不足



対応 地域の会合や高校でのPR実施

30年度、公共交通の利用案内として、4月に「新城市バスマップ」を作成し、市内全戸への配布と各施設への配架を行った。また、7月には「新城市マイバス時刻表」の発行を開始し、11月には市内を走るバス情報の検索サイトへの掲載を開始した。こうした利用案内については、ホームページや広報でPRをしているが、まだ定着には至っていない。今後は、地域の会合での申込みの仕方や利用の仕方を含めたPRや高校での体験型のPRを実施し、利用の仕方を知っていただくことで、利用者の拡大につなげる。

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

新城市地域公共交通会議

平成19年12月26日設置

フィーダー系統 平成29年6月21日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>各路線ごとに地域が主体となった「路線を守り育てる会」により確保維持改善を行っていることは評価します。一方で、機能している会が一部となっており結果的に利用者の減少を招いていることから、てこ入れが必要です。</p> <p>今後は、近隣市町村と連携を更に強め地域間幹線系統である田口新城線の方向性を検討した上で、地域住民との協働により公共交通の見直しや利用促進を行う組織の位置づけを明確にし、地域間幹線系統も含めた地域公共交通網形成計画を策定することを期待します。</p>	<p>○新城市地域公共交通網形成計画の策定 新城市地域公共交通会議での協議も踏まえながら、平成29年3月に新城市地域公共交通網形成計画を策定した。</p> <p>○計画への地域住民との協働についての記述 地域住民と協働して路線の見直しや利用促進を行うため、「地域・行政・交通事業者で公共交通を支える体制づくり」という内容を計画に記述した。</p> <p>○計画への田口新城線に関する内容の記述 田口新城線活性化のため、「協議組織の設置」、「高校統合に合わせた運行経路の見直し」、「他の路線との乗継利便の向上」「観光路線としての役割強化」、「料金体系の見直し・運賃割引制度の導入」という内容を計画に記述した。</p>	<p>○地域と一体となった施策の実施 新城市地域公共交通網形成計画に基づき、地域への現況説明やワークショップ等での協議を行い、路線の見直しや利便向上策、利用促進策の実施につなげていく。</p> <p>○田口新城線の方向性検討 平成31年度の沿線にある高校の統廃合に向けて、沿線市町村、交通事業者、高校といった関係者で協議を行い、経路及びダイヤの見直しや利便向上策・利用促進策の実施を早急に進めていく。</p>

新城市若者議会との連携

新城市若者議会とは

平成27年4月1日に「新城市若者条例・新城市若者議会条例」に基づき、設置されたものである。若者が活躍できるまちにするため、若者を取り巻くさまざまな問題を考え、話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくり政策を検討している。予算提案権も持ち、予算の使い道を若者自らが考え政策立案を行う。

平成30年度は若者議会委員が公共交通に対して問題意識を持ち「NO BUS NO LIFE 事業」として、政策立案を行い、平成30年11月2日に市長に対して答申を行った。

市長答申



まとめ シート

Now 新城市はどんな状態？

Sバスは、バス自体の認知度は82.1%と高いが、利用者・運行時刻や運賃について知っている人は10%台と少ない。また、Sバスの乗り方自体分からないといった声もある。
高速バスについては、新城市に来てそこからどう観光したらいいかわからない、新城市の観光ガイドはあるが具体的な交通手段が分からない、という声がある。
また、高速バスは新しい事業のため、これから可能性を見つけていきたい。

Future この事業を通じて、作りたい未来は？

交通手段の選択肢の一つとして、気軽にバスを利用してもらいたい。車を使えないときや、免許を持たない人・学生が自分で行動できるようになど、生活に密着した交通手段になることを目指したいと考えている。また、高速バスやSバスを利用して新城市の観光を楽しめるようになってほしい。

Why なぜその未来をつくりたいの？

気軽にバスを使うようになることで行動の幅が広がり、例えばお店の利用が増えて活性化に繋がったり、バスの利用が増えることによってバス停の設備の充実につながる。また、自家用車ではなく公共交通を使うことにより、人が集まり人のつながりができる。

Who 誰がやるの？

行政課、プロジェクトチーム

Whom 対象となる人々は誰？

市民、観光客

事業の名前「NO BUS NO LIFE 事業」

How 具体的にどのような内容？

Sバスと高速バスの利用者を増やすため、バスを気軽に利用してもらえるような「きっかけづくり」を行う。

【「Sバス・高速バス攻略アドベンチャー」の実施】

バスの具体的な乗り方や便利な使い方をPRすると共に、バスに対する意見をまとめてバスマップの制作につなげる。同時に、市民によるプロジェクトチームへの参加を声掛りする。

【バスマップ等のリニューアル】

行政課と市民によるプロジェクトチームを作り、冊子型のバスマップの制作、Sバス観光リーフレットの制作、高速バスの広告のリニューアルを行う。

・冊子型のバスマップ

ポケット型のものと一緒に、より分かりやすく提示することが目的。車両のイラストや、路線毎の色分け、デマンド運行の説明などを載せる。

・Sバス観光リーフレット

時間や目的に合わせたモデルコースを載せ、市外からの観光客と、市民の新たな視点や活動の広がりのために作成。そのため、冊子型のバスマップと同じ部数が必要だと考え、セットでの配布。

・高速バスの広告

歴史に特化したものなど対象をしぼり、周りの施設へのアクセス方法や、料金・予約方法などを分かりやすく表記。

【Sバス路線車両の明確化】

路線の色分けについて車両でも明示するために、マグネットシートを貼り付け。

How much 想定される費用は？

バス攻略アドベンチャー 178,000円 路線車両明確化 97,000円
バスマップ等リニューアル 1,900,000円 合計 2,175,000円

担当課との意見交換



高速バス・田口新城線を活用した企画切符の発売開始

新城市と名古屋市の藤が丘、長久手市を結ぶ、高速バス「山の湊号」及び新城市と設楽町を結ぶ地域間幹線である田口新城線の利用促進のため、企画切符の発売を開始した。

この企画切符は通常よりもお得な値段で乗車できるだけでなく、目的地である鳳来寺での博物館割引サービスや飲食店の割引サービスも受けられるようになっている。

新城市「マイバス時刻表」の発行

地域住民の方からの自分の家の近くのバス停から目的地までどのように行けばよいのかわからないといった声に応えるため、利用者の最寄りバス停と目的地までのみを記した新城市「マイバス時刻表」の発行を開始した。

サンプル ○○○○様マイバス時刻表 運賃：660円

新城市・新城駅口(発)→七滝口(着) 利用可能日:月～金 (平成30年4月1日現在)

乗換バス(田口新城線) 新城栄町・新城駅口(発)			
9:21	13:24	15:29	16:55
本長篠駅前(着) 運賃460円			
9:45	13:48	15:53	17:19
本長篠駅前前で乗換 Sバス(秋葉七滝線) 本長篠バスターミナル(発)			
10:38	13:51	16:21	17:50
七滝口(着) 運賃200円			
11:25	14:39	17:10	18:37

バス満足度調査の実施

路線バス利用者の満足度を聞くため、実際に職員がバスに乗り込み、聞き取り調査を行った。